

※ 会議中の留意事項

- 委員の皆様はビデオはON・音声はOFF
- 会員の皆様はビデオ・音声ともにOFF

をお願いします

〔スマートシティくまもと推進官民連携プラットフォーム運営委員会事務局〕

スマートシティくまもと推進官民連携プラットフォーム

令和5年度 第1回運営委員会

2023年11月7日

本日のタイムスケジュール

時間	内容	登壇者
13:00-13:02	開会のご挨拶	熊本市政策局長 田中俊実
13:02-13:07	R5年度におけるプラットフォームの活動について	事務局
13:07-13:52	R4年度設置プロジェクトからの活動報告および 運営委員会講評 (プレゼン10分+講評5分=15分/社)	西日本電信電話株式会社様 株式会社地域創生Coデザイン研究所様 富士通Japan株式会社様
13:52-14:22	R6年度事業提案に向けたプロジェクトチーム 設置申請状況の報告および運営委員会承認	報告：事務局 承認：運営委員会
14:22-14:28	事業提案公募スケジュールおよび 今後のスケジュールについて	事務局
14:28-14:30	閉会のご挨拶	熊本市政策局長 田中俊実

本日のご出席者

ご所属	運営委員会委員
熊本経済同友会	副代表幹事 野々口 弘基 様
熊本商工会議所	専務理事 坂本 浩 様
熊本大学	副学長・熊本創生推進機構副機構長 金岡 省吾 様
崇城大学	IoT・AIセンター長 情報学部教授 星合 隆成 様
熊本市	政策局長 田中 俊実 ※委員長
事務局	熊本市データ戦略課課

※会員の皆様にもご視聴いただいております

開会のご挨拶

R5年度におけるプラットフォームの活動について

スマートシティくまもと推進戦略の下、「誰もが快適で利便性の高い暮らしを実感できる持続可能なまち」を目指し、その実行に向けて取り組んでいます

全体方針説明会資料再掲

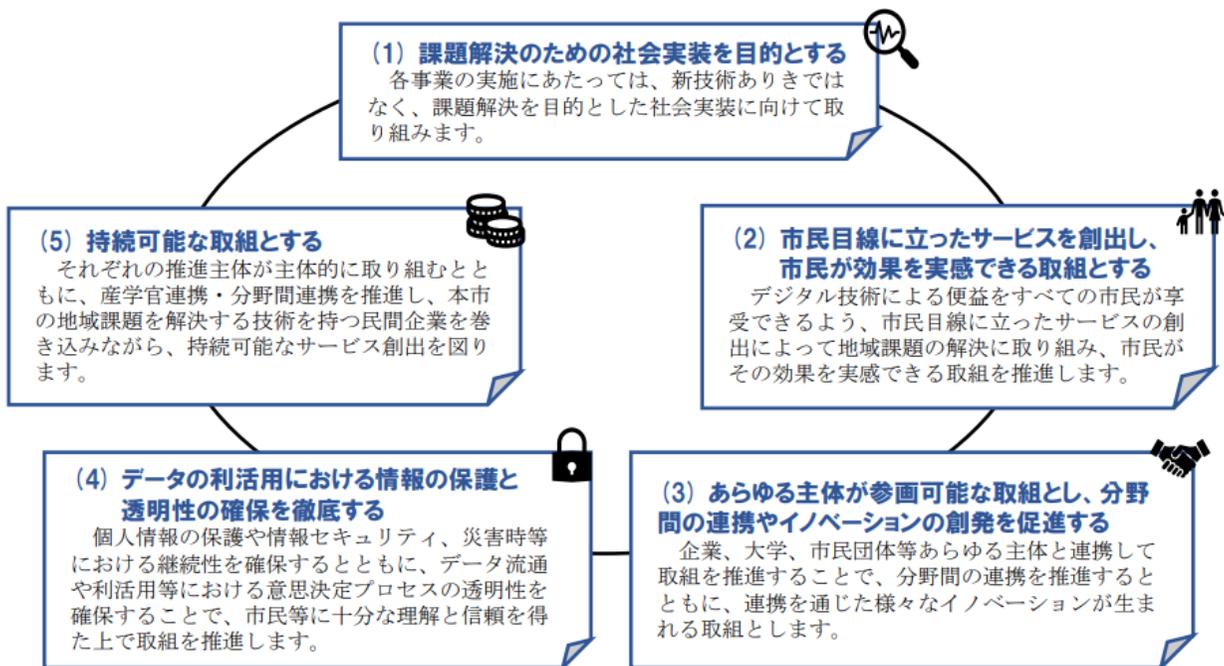
スマートシティくまもと推進戦略の目指す姿と基本方針

目指す姿

誰もが快適で利便性の高い暮らしを
実感できる持続可能なまち

スマートシティの定義

ICT等の新技術やデータを活用し、多様な市民ニーズに対応したサービスの提供や都市機能を効率化・高度化することにより、地域の課題を解決し、持続的で上質な市民生活・都市活動を実現するまち

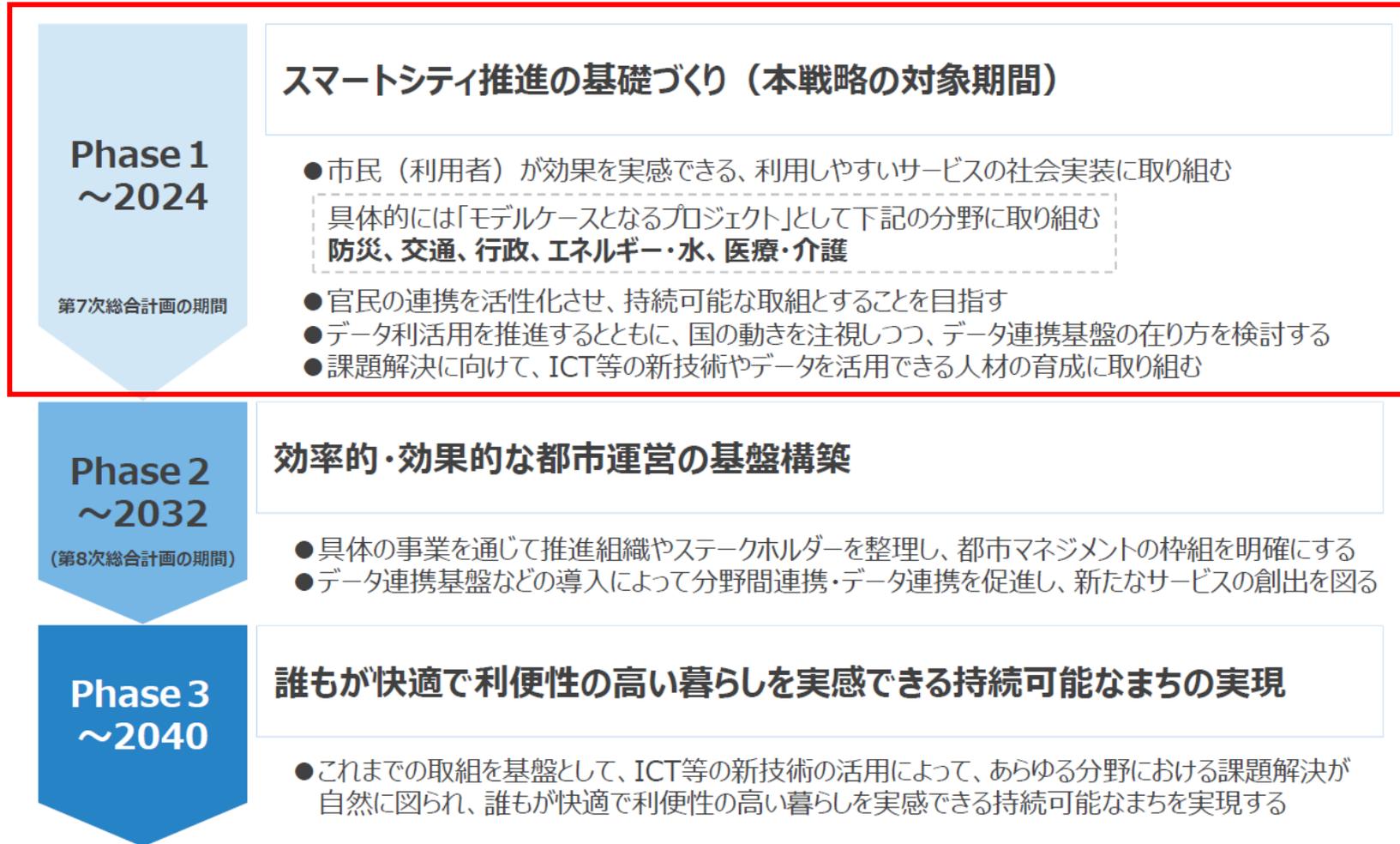


目指す姿の実現に向けてPhaseを3つに分けて実施しており、今年度、本戦略の対象期間の終期を迎えます

全体方針説明会資料再掲

目指す姿の実現に向けてのステップ

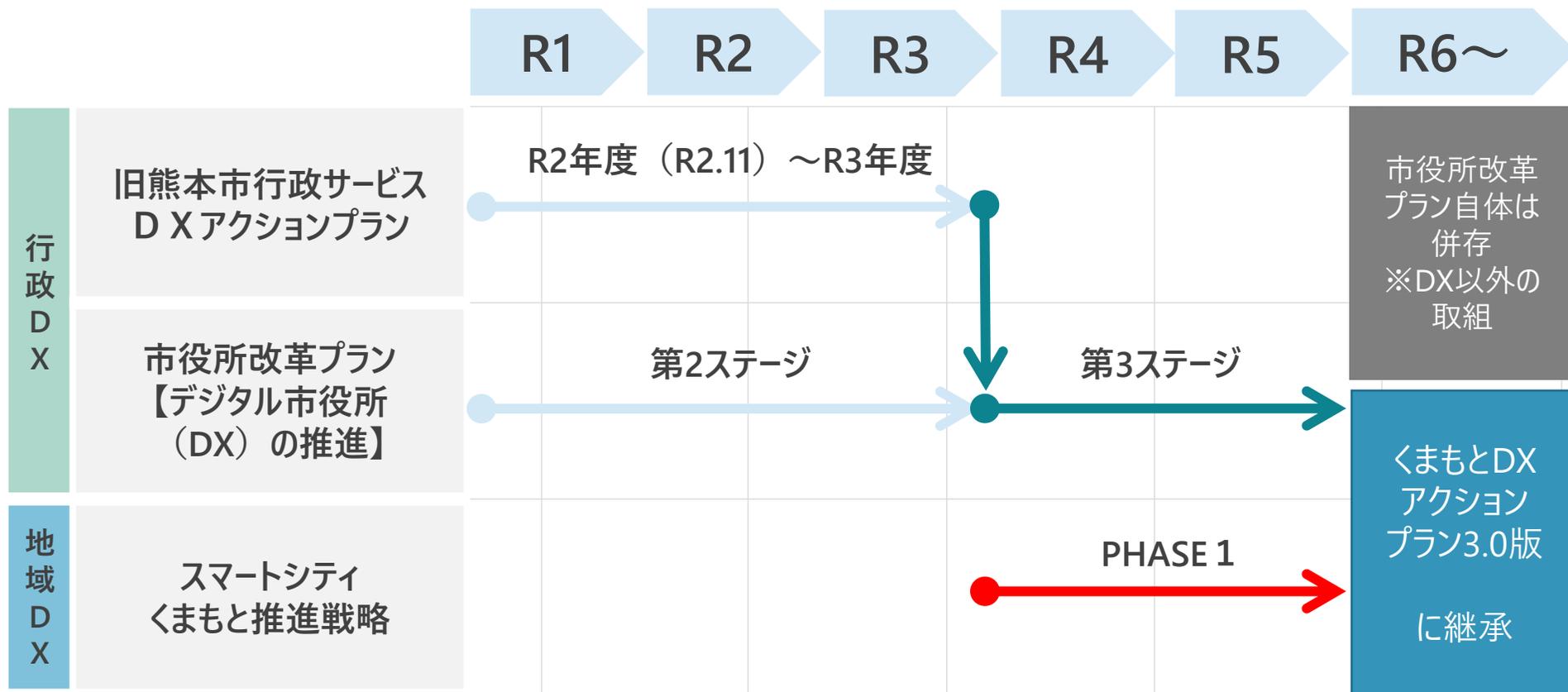
本戦略の対象



※西暦表記

本戦略については、今年度中に行政DXと地域DXを一体的かつ計画的に進める「(仮称)くまもとDXアクションプラン3.0版」に発展的に継承する方針です

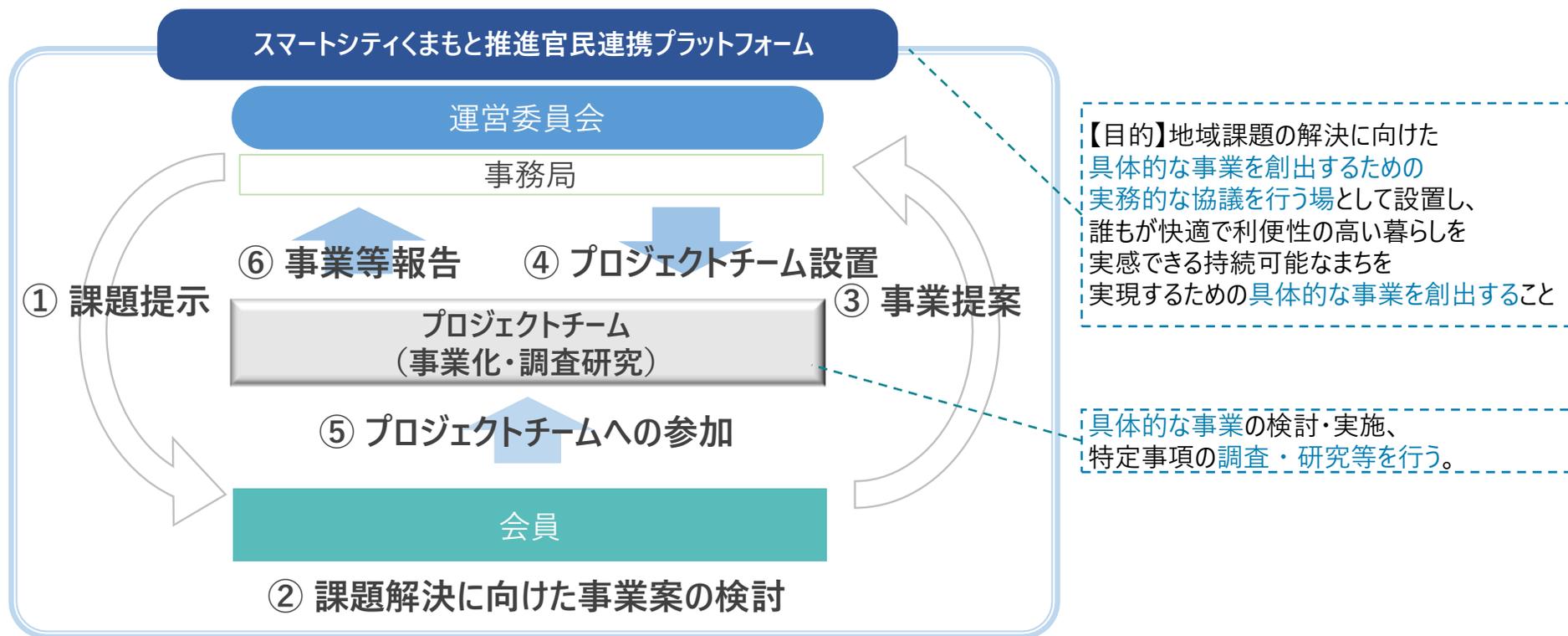
市役所改革プラン・スマートシティくまもと推進戦略の統合イメージ



新プランの下でも引き続き本プラットフォームの枠組みは維持し、会員様がプロジェクトチームを組成し、運営委員会とも連携し、プロジェクトを推進していくことを想定しています

全体方針説明会資料再掲（一部修正）

スマートシティくまもと推進官民連携プラットフォーム



令和5年10月23日時点で、パートナー会員39団体、一般会員39団体、計78団体が参画しています

パートナー会員 一覧 (R5.10.23時点)

(50音順)

パートナー会員 (39団体)

朝日航洋株式会社	株式会社ゼログラフィックス
株式会社アソウ・アルファ	双日九州株式会社
アルサーガパートナーズ株式会社	株式会社地域創生Coデザイン研究所
wavelogy株式会社	デロイトトーマツコンサルティング
NECソリューションイノベータ株式会社	株式会社電算
株式会社NTTドコモ九州支社 熊本支店	凸版印刷株式会社西日本事業本部熊本営業所
株式会社ALL LINKAGE	トッパン・フォームズ株式会社
株式会社オプティム	西日本電信電話株式会社
特定非営利活動法人介護予防で日本を元気にする会	日本電気株式会社
カネミツ・ソリューションズ合同会社	公益財団法人日本道路交通情報センター
九州産業交通ホールディングス株式会社	日本パースト株式会社
九州産交バス株式会社	株式会社肥後銀行
株式会社九州ソフタス	富士通Japan株式会社熊本支社
株式会社クロス・クリエイション	株式会社福山コンサルタント
KumaMCN	株式会社まちのわ
株式会社KIS	株式会社メディアラート
株式会社構造計画研究所	UTモビリティサービス株式会社
株式会社J.H.Wellness	株式会社Youmix
スマートエナジー熊本株式会社	株式会社Liquitous
	62Complex株式会社

令和5年10月23日時点で、パートナー会員39団体、一般会員39団体、計78団体が参画しています

一般会員 一覧（R5.10.23時点）

（50音順）

一般会員（39団体）

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社熊本支店

アステリア株式会社

株式会社アスリートクラブ熊本

株式会社エヌ・アイ・ケイ

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ関西

エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社

株式会社NTTフィールドテクノ

株式会社KASSE JAPAN

株式会社キューネット

公立大学法人熊本県立大学

株式会社熊本銀行

K Mバイオロジクス株式会社

熊本市中心商店街等連合協議会

熊本都市バス株式会社

株式会社熊本日日新聞社

株式会社熊本流通情報センター

光進建設株式会社

サイトエンジン株式会社

株式会社サーベイリサーチセンター南九州事務所

株式会社JX通信社

全日本空輸株式会社熊本支店

大日本印刷株式会社

株式会社竹中土木九州支店

中部電力株式会社

株式会社テクノミックス

東部トップツアーズ株式会社

ニューコ・ワン株式会社

パーソルプロセス&テクノロジー株式会社

株式会社パスート24

パナソニック株式会社エレクトリックワークス社

株式会社日立製作所九州支社九州中央支店

株式会社フジタ九州支店熊本営業所

株式会社MARUKU

ポケットサイン株式会社

株式会社三井住友銀行

モバイルクリエイイト株式会社

株式会社ワークスアプリケーションズ

株式会社ワイズ・リーディング

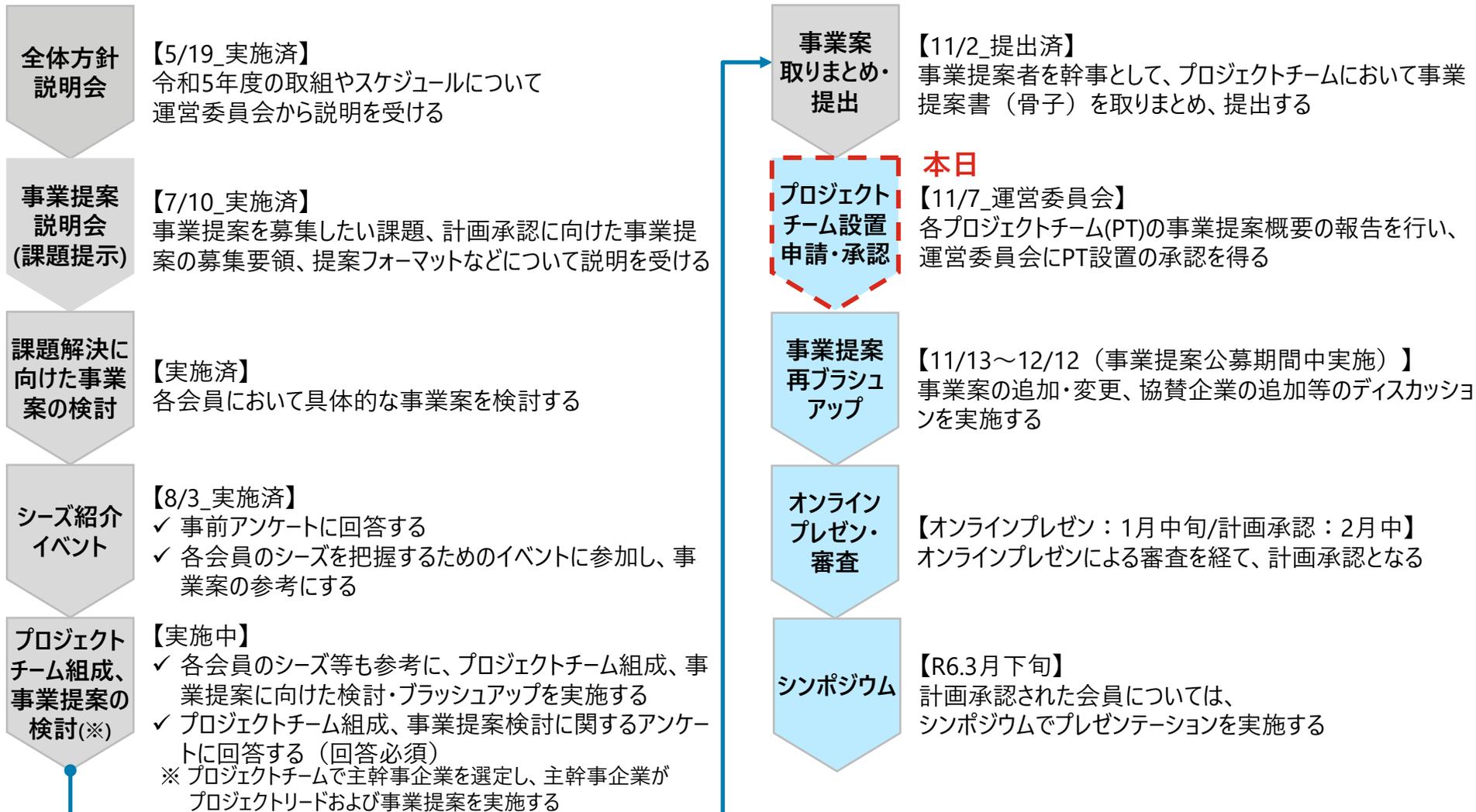
株式会社Y4.com

7月に事業提案説明会で課題を提示し、会員企業の事業提案の意向確認を行い、業務担当課との協議やプロジェクトチーム組成、事業提案に向けた検討を実施してきました

事業提案説明会資料一部更新

プロジェクトの計画承認までの流れ（進捗）〔会員のタスク〕

【凡例】 : 実施済 : 今後実施予定



R4年度設置プロジェクトチームからの 活動報告・運営委員会講評

R5年度において、事業化に向けた実装フェーズとして実証事業を実施している 防災プロジェクトについて、本日ご報告いただきます

事業化に向けた実装フェーズの2事業について

事業化に向けた実装フェーズ

< 医療・介護 >

健康で生きがいをもったまちづくりの実現に向けて



< 防災 >

プロアクティブな防災対応、その実現に向けて



「健康で生きがいをもったまちづくりの実現に向けて」は、当期において
事業化が完了しているため、期末に最終報告させていただきます。

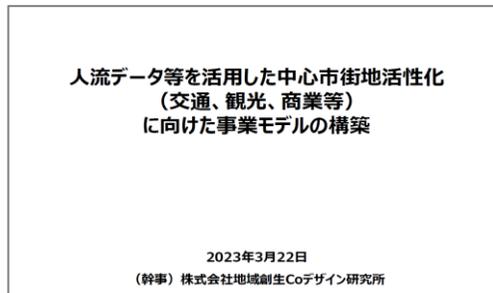
R5年度において、実証事業実施フェーズとして実証事業を実施している 人流、環境の2プロジェクトについて、本日まで報告いただきます

実証事業実施フェーズの2事業について

実証事業実施フェーズ

< 人流 >

人流データ等を活用した中心市街地活性化に向けた
事業モデルの構築



< 環境 >

LINEを活用した市民参加型モニタリング調査



R6年度事業提案に向けたプロジェクトチーム 設置申請状況の報告・運営委員会承認

本日承認いただいたプロジェクトチームは、事業提案公募期間中に、プロジェクトチーム統合や協業先の具体化を含む事業提案ブラッシュアップを実施いたします

プロジェクトチーム設置承認後の進め方



【プロジェクトチーム規則_第4条】

運営委員会は、第3条に基づく事業提案等に意見を述べるとともに、別に定める基準に適合するものと確認した場合には、プロジェクトチームの設置を承認する。

①プラットフォームで提示のあった課題の解決に向けた提案になっているか

②単に自社（団体）のサービスや製品の提案だけになっていないか

③ICT等の新技術やデータを活用したものになっているか

④産学官等、あらゆる主体と連携することが示されているか

⑤持続可能な取組を目指すものになっているか

⑥事業スケジュールや取組地域等、十分な実現性が見込めるか

⑦他分野とのデータ（システム間）連携等、今後のスマートシティ推進に発展性が見込めるか

事務局からの申し送り事項

- 事務局で事前に各プロジェクトチームと協議を行い、プロジェクトチーム規則第4条で定める左記基準に適合することを確認の上、本運営委員会に諮っております
- 11/2（木）に各プロジェクトチームから提出された事業提案書（骨子）をベースに、**事業提案公募期間（11/13～12/12）において、プロジェクトチーム統合や協業先の具体化を含む、事業提案ブラッシュアップを実施します**
- 事業提案公募期間終了後、運営委員会に「事業提案書兼計画承認申請書（最終版）」としてご提出いたします

運営委員の皆様へのご依頼事項

- **事業提案実施には、プロジェクトチームの設置が前提となるため、**本日はプロジェクトチーム設置の承認をいただきたく、お願い申し上げます
- 最終的には、「事業提案書兼計画承認申請書（最終版）」をもって、運営委員会の講評をいただき、その後審査を実施する方針です

R5年度は6つの課題について事業提案を募集し、7社からプロジェクト設置申請書を提出いただいています。次頁以降の提案概要を踏まえ、ご承認をいただきたくお願いいたします

課題番号	提案募集名	担当課	プロジェクトチーム設置申請書提出主幹事企業名
1	災害発生時等における避難行動要支援者の避難支援・安否確認の仕組み	防災計画課	1-1.モバイルクリエイト株式会社 1-2.株式会社構造計画研究所
2	児童の登下校時の安全対策強化	健康教育課	2-1.モバイルクリエイト株式会社 2-2.株式会社ALL LINKAGE
3	本市への旅行客、関係人口を増やす新たな観光サービスの提供	観光政策課	申請なし
4	公共交通利用やピーク分散など市民の行動変容に向けた情報提供の仕組み	交通企画課	4,5-1.株式会社まちなのわ
5	自転車利用による慢性的な交通渋滞の緩和と回遊性向上による中心市街地の活性化	自転車利用推進課	
6	道路施設の維持管理の効率化・高度化	道路保全課	6-1.62Complex 株式会社 6-2.西日本電信電話株式会社 熊本支店

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

提案募集1に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：2件

提案1-1：ICTを活用した要支援者の状況把握及び、避難支援者向け情報伝達システムの構築

主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
モバイルクリエイト株式会社	—	<p>◆ 提案要旨 災害発生時の初動は概ね無線を利用し避難情報連携を行うため音声 をテキスト化することで、聞き漏らした状況、いち早く避難した要支援者 等のピックアップ（AI要約によりピックアップ時間の削減）を行い避難者 等の情報連携を行う余震等による各方面からの音声データを要約しデー タ情報整理の簡略化を行い避難指示等の通達が早めることが可能にな ると想定している。</p> <p>◆ 実証事業での具体的な実施事項</p> <ul style="list-style-type: none">• 現地情報連携用としてIP無線50台程度配備• 音声データテキスト化、データ要約（AI）システム構築• Webサーバー構築 <p>◆ 今後の展望 本実証実験にてIP無線での情報連携、音声のテキスト化の効果が見ら れれば、要支援者DB等と連携しデータ自動入力、アプリ開示による情 報の早期展開を見込んでいる。 ※音声テキスト化は、方言等により100%を保証するものではなく、現状 の情報伝達漏れ等をサポートするものと想定。</p>

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

提案募集1に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：2件

提案1-2：災害発生時における避難者の状態に応じた柔軟な避難所の開設（仮）

主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
株式会社構造計画研究所	—	<p>◆ 提案要旨 災害発生時には避難行動要支援者の避難も含め、様々な状況の方の避難が想定される。様々な方の状況に応じた避難施設の開設や備蓄倉庫の準備等が必要となるが、現状では組織体制や施錠の管理等のため避難関連施設への迅速なアクセスが困難である。スマートキーの仕組みを用いて、本部で避難施設等へのアクセスを一元管理し、個別状況に応じた効果的な避難を実現する仕組みを検証する。</p> <p>◆ 実証事業での具体的な実施事項 スマートキーを用いた災害発生時における避難所等開設の効率性向上の検証。具体的な実施事項は以下。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 避難対象施設へのスマートキーの設置・ 避難訓練等での福祉避難所・福祉子ども避難所への避難スキームの確認・ スマートキーを利用した迅速な避難施設の開設、効果についての評価 <p>◆ 今後の展望 災害時に避難所の解放をスピーディにするだけでなく、日常的な利用における市民サービスの品質の向上と、施設の省人化による行政側の負担の低減を図ることが可能になる。</p>

児童の登下校時の安全対策を強化するため、登下校時の状況をタイムリーに保護者や学校が把握できる仕組みを構築したい

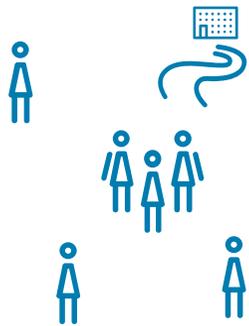
提案募集 # 2 : 児童の登下校時の安全対策強化

業務担当課：健康教育課

背景

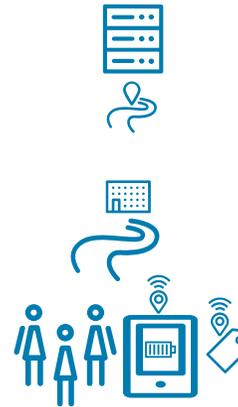
本市では、不審者事案が増加傾向にある。共働き世帯が増加するなど児童の登下校の在り方が多様化する中、児童を危険から守るため、市公式LINEを活用した不審者情報等の発信や、防犯パトロールの実施など対策を講じているが、従来型の活動だけでは限界が生じている。保護者や学校、地域の目が行き届かず、「見守りの空白地帯」といわれる児童の登下校時の安全対策を強化したい。

現状



「見守りの空白地帯」において、犯罪等に巻き込まれるリスクが高まるが、児童一人ひとりの安全確保について、十分な対策ができていない

取組後



- ✓ ICTを活用した継続的な見守りの実施
- ✓ 児童への危険情報のタイムリーな周知
- ✓ 収集データを活用した効果的な安全対策の検討・実施

児童が安心して登下校できる環境の整備

解決したい課題

- 児童の登下校時の状況を、リアルタイムもしくはリアルタイムに近いかたちで保護者、学校が把握できる仕組みを構築したい
- 登下校中の児童に対し、危険を周知する仕組みができれば、なおよい

目指す姿

- 児童の登下校時の状況を、保護者、学校が継続して見守ることができる
- 児童に危険情報を知らせることで、安全を確保することができる
- 収集した情報を学校、保護者、地域で共有するなどし、地域の安全対策強化等に活用する

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

提案募集2に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：2件

提案2-1：LINEと動態管理システム導入における児童の登下校環境整備について

#	主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
1	モバイルクリエイト株式会社	-	<p>◆ 提案要旨</p> <p>児童の登下校時の安全対策を強化するため、登下校の状況を保護者や学校が把握できる仕組みを構築。登下校の児童をGPS端末を利用し学校側ではリアルタイム動態一斉管理、保護者は自身の児童のみのリアルタイム動態管理を行う。</p> <p>防犯パトロールの協力者へ音声かつ一斉送信にて情報の連携を行うことで危険な行動を未然に防ぐことができると想定する。</p> <p>◆ 実証事業での具体的な実施事項</p> <ul style="list-style-type: none">• 児童へGPSデバイスの配備（実証実験では1クラスを想定）• 児童の位置情報を保護者と学校が把握できるシステムの導入• 緊急連絡用として防犯パトロールを実施している方へデバイスを配備（10台程度）• Webサーバー構築 <p>◆ 今後の展望</p> <p>本実証実験にて効果が見られればさらにジオフェンス等を用いて指定範囲外へ出たり、危険エリアへの進入等をアラート通知等の情報展開を見込んでいる。</p>

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

提案募集2に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：2件

提案2-2：HAZARD Busterアプリ（クラウド）サービスを用いた登下校時の安全対策強化

#	主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
2	株式会社ALL LINKAGE	—	<p>◆ 提案要旨</p> <p>すでに教育現場で導入されているiPad内にHAZARD Busterアプリをインストールし、GPSと連動させ、緊急時における位置情報の強制検索やトラッキングによる移動履歴の確認を用いて、複数の児童の位置情報を同時に把握することができ、地図を用いた危険情報の共有・配信やお知らせ機能を使い緊急情報（プッシュ通知対応）の通知など複数の機能を活用して、登下校時の安全対策の強化を図る。</p> <p>さらに、地図上に防犯情報（過去の変質者発生場所）や地域の避難場所、交通事故多発地帯などを表示させて見える化を行い防犯学習や、お知らせ機能を使ったクラス単位・学年単位・全学年単位での必要情報の共有、チャットを使って連絡網としても利用でき、平時（課外学習時や修学旅行時等）においても活用が可能。</p> <p>◆ 実証事業での具体的な実施事項</p> <ul style="list-style-type: none">• 児童の登下校時の位置情報の取得と確認• 児童の登下校時の移動履歴（トラッキング）と軌跡の確認• 充電との関係における、アプリのON/OFF及びトラッキングの時間間隔• 地図とお知らせ掲示板を用いた危険情報の配信• 地図上での危険発生エリアの表示と確認 <p>◆ 今後の展望</p> <p>フェーズフリーでの活用、市内全小学校での利用</p>

多様化する旅行者のニーズや価値観に基づく観光体験を可視化し、共有することで、本市の魅力再発見または新たな価値を創出し、「熊本ファン」を増やす仕組みを構築したい

提案募集 # 3 : 本市への旅行者、関係人口を増やす新たな観光サービスの提供

業務担当課：観光政策課

背景

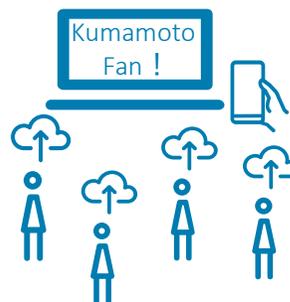
コロナの流行により、本市を訪れる旅行者数の一時的な落ち込みを経て、今後は再び国内、インバウンドともに旅行者数の増加が見込まれる。一方で、コロナ禍で観光の在り方が変化し、マイクロツーリズムやオンラインツーリズムなど、地域の魅力を再発見し、シェアする動きがみられる。本市として、多様化する旅行者のニーズや価値観に訴求するだけでなく、関係人口を増やし、「熊本ファン」による地域の魅力の発掘、新たな価値の創出に繋がる仕組みを検討している。

現状



市民、旅行者、「熊本ファン」がそれぞれもつ、地域の観光資源や文化資源に関する情報を可視化し、共有する仕組みがない

取組後



- ✓ 既存の観光資源に新たな価値を生む旅行者発の情報発信
- ✓ 熊本ファンベースの観光情報サイトの構築
- ✓ 旅行者に対する個別最適化したタイムリーな情報の提供

本市の旅行者数・関係人口増加に貢献

解決したい課題

- 本市発の観光情報が、一方向の情報提供に留まっており、市民、旅行者等が本市の魅力を発信する双方向の場を提供できていない
- 「熊本ファン」を増やす仕組みが充分でない
- 多様化する旅行者のニーズに対し、個別最適化され、かつタイムリーな情報提供ができていない

目指す姿

- 地域の観光資源を多角的な視点で捉えることで、新たな観光資源が生まれ、さらなる旅行者の増加に繋がる
- これまで見えなかった地域の魅力が可視化され、市民が地域のことをより知ることができるようになる
- 多様かつ多層な観光資源をもつ魅力あるまちとなり、関係人口が増加する

参考：総務省_関係人口ポータルサイト

※関係人口：移住した「定住人口」でもなく観光に来た「交流人口」でもない地域と多様に関わる人々

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

提案募集3に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：なし

提案募集名：本市への旅行客、関係人口を増やす新たな観光サービスの提供

#	主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
---	--------	------------	------

申請書提出なし

公共交通への転換や新しい働き方に応じた通勤等を促進することにより、市民の移動スタイルを多様化し、慢性的な交通渋滞の緩和を図る

提案募集 # 4 : 公共交通利用やピーク分散など市民の行動変容に向けた情報提供の仕組み

業務担当課：交通企画課

背景

現在、熊本都市圏における移動手段の割合は、約6割が自家用車となっており、過度に車に依存した交通体系が慢性的な交通渋滞を招く要因となっている。特に、朝夕のピーク時における渋滞が激しく、渋滞緩和に向けては、自家用車から公共交通への転換や時差出勤によるピーク交通量の抑制が必要な状況である。

現状



移動に際し、公共交通機関の利便性が低く、結果として、自家用車に頼らざるを得ない

特に朝夕のピーク時には、通勤や通学の送迎が集中し、交通渋滞が悪化



公共交通では、朝夕ピーク時に積み残しが発生するなどサービス供給のリソースが不足

取組後



- ✓ 利用者のニーズや利用特性に応じた公共交通機関の情報提供
- ✓ リモートワークを組み入れた時差出勤 など



- ✓ 公共交通機関の利用率増加
- ✓ ピーク交通量の分散



慢性的な渋滞の解消

解決したい課題

- 市民の移動を自家用車から公共交通へ転換させたい
- ピーク時に集中する交通量を分散させたい
- 市民が、公共交通機関を効率よく利用するために提供すべき情報を把握したい

目指す姿

- 利用者が各人に最適な移動手段で、効率的に移動できる
- 公共交通機関の利用が促進され、慢性的な渋滞が緩和される
- ピーク時の交通量抑制による渋滞緩和

自動車から自転車への転換により、中心市街地への自動車の流入を抑制し、慢性的な渋滞を緩和するとともに、回遊性を向上させて中心市街地の活性化に繋げたい

提案募集 # 5 : 自転車利用による慢性的な交通渋滞の緩和と回遊性向上による中心市街地の活性化

業務担当課：自転車利用推進課

背景

本市は、慢性的な渋滞解消に向け、都市交通の最適化の実現を目指しており、その手段の一つとして、自転車の利用を促進したい。また、中心市街地における公共交通機関、自動車の補完機能として自転車を利用することで、観光客や市民の通勤通学、買い物、ビジネスなど回遊性向上に寄与したい。自転車の利用促進に向けた取組の一例として、市が運営する一部駐輪場でのキャッシュレス決済の導入やシェアサイクルの導入を実施しているが、利用情報等は活用できていない。

現状



自動車利用による慢性的な渋滞の発生

取組後



自転車利用者の増加



利用者のニーズや利用特性に応じた最適な駐輪施設等の整備



観光地や商業店舗と自転車との連携による賑わいの創出への貢献



既存サービスとの連携など提供サービスの最適化

解決したい課題

- 自転車への転換により中心市街地への自動車の流入を抑制し、慢性的な渋滞を緩和したい
- 中心市街地における、観光客や市民の回遊性を向上させる仕組みを構築したい

目指す姿

- 利用者のニーズや利用特性に応じた駐輪施設等を整備し、利便性を高める
- 観光地や商業店舗等と連携し、中心市街地の賑わいを創出する
- 既存サービスと連携するなど最適化し、ムダのないサービスを実現する

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

提案募集4および課題5に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：1件

提案4,5-1：「移動を変えて、まちを変えよう」

主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
株式会社まちのわ	株式会社日専連ファイナンス 62Complex 株式会社 neuet 株式会社（調整中）	<ul style="list-style-type: none">◆ 提案要旨 電子商品券という分かりやすいインセンティブを付与し、公共交通機関や自転車・シェアサイクルを利用するきっかけを提供することで、市民の行動変容を促すとともに、中心市街地商店街の活性化に寄与する。 ◆ 実証事業での具体的な実施事項<ul style="list-style-type: none">• プレミアム付き電子商品券を発行し、ユーザー登録時に通勤・通学時の交通手段を入力してもらう• 自動車通勤と答えた人に対して、キャンペーン期間中に自転車の購入またはシェアサイクルを利用することで、電子商品券を付与する• 交通量・人流の計測システムを使って市民に情報提供し、渋滞を避けた移動を支援する• 「バス・電車無料の日」に合わせてシェアサイクルの利用促進キャンペーンを実施する ◆ 今後の展望<ul style="list-style-type: none">• 交通量・人流の計測システムを使って、特に渋滞が慢性的な地域や時間帯を特定し、アプリのお知らせ・プッシュ通知を利用して渋滞を避けて移動する支援を行い、市民の行動変容に向けた情報提供を行う• 道路や街中にセンサーを設置し、人流・交通量を同時計測し交通状況を可視化するとともに、道路の実態をAIで解析を行い、重点的に対策が必要な個所を洗い出す• 『自家用車利用』から『公共交通機関＋シェアサイクル』というモビリティの転換を促し、「ウォークラブルなまちづくり」の一環としての政策に寄与する

道路施設の維持管理の効率化と高度化を図り、市民がより安全に暮らせるまちづくりを行いたい

提案募集 # 6 : 道路施設の維持管理の効率化・高度化

業務担当課：道路保全課

背景

本市では、道路の破損個所の修繕や幹線道路等の定期的な点検、道路施設の老朽化対応など、道路施設全般の良好な状態維持に努めている。一方、こうした維持管理に充てられる人的コストや財源には限りがあり、効率的な維持管理の仕組みが必要である。また、半導体企業の進出により、今後さらなる交通量の増加が見込まれる中、道路の重大な損傷の発生やそれによる交通への影響について適切な対応の検討もとめられる。

現状



道路の保守・点検作業の工数大



道路施設の点検結果や修繕履歴の管理・活用が図られていない。

取組後



- ✓ IT技術を活用した路面状況の把握
- ✓ 保守が必要な箇所を効率的に把握
- ✓ 点検結果や修繕履歴等、維持管理状況の情報を効率的に活用できる状態にする

効率的かつ高度な道路施設の維持管理により、市民がより安全に暮らせるまちづくりに貢献

解決したい課題

- 道路施設（舗装、側溝、安全施設等）の保守・点検作業に膨大な人的コストがかかり、業務を効率化したい
- 市が管理する道路施設の点検・修繕履歴等を一元管理する仕組みを構築したい

目指す姿

- コスト縮減や作業の省力化を図り、より効率的な道路維持管理を実施する
- 効率的かつ持続的な道路施設の維持管理システムの確立により、より市民が安全に暮らせるまちになる

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

提案募集6に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：2件

提案6-1：テクノロジーで道路を守る、安全で快適なまちづくり

#	主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
1	62Complex 株式会社	オングリットホールディングス株式会社	<p>◆ 提案要旨</p> <p>従来、人の目視点検で行っていた道路の保守・点検において、AIを活用した分析システムを導入することで、人手不足を解消し、安全に暮らせる社会を実現します。</p> <p>◆ 実証事業での具体的な実施事項</p> <ul style="list-style-type: none">• 路面状況の把握 自動車に計測センサーを搭載し、道路区画線の路面状況や道路付属物のデータを収集致します。収集したデータをAIに学習させる。• 保守点検箇所の分析 計測センサーを搭載した車両などを路面に走らせ、道路における保守点検が必要な箇所を分析し、AIで判定を行う。• データのアップロード 点検結果や補修が必要な情報をクラウド型のシステムなどで一元管理する。 <p>◆ 今後の展望</p> <p>令和7年度以降の展望としては、計測器を搭載した車両などを道路に走らせることで、補修点検箇所をAIが自動で分析し、データ連携基盤に登載していくことを検討している。保守点検の自動化とさらなる効率化を実現する。</p>

【プロジェクトチーム設置承認伺い】

課題6に対するプロジェクトチーム設置承認伺い：2件

提案6-2：DXを活用した道路維持管理の高度化に向けた事業モデルの構築

#	主幹事企業名	プロジェクト参加企業	提案概要
2	西日本電信電話株式会社 熊本支店	タクシー会社(予定)、バス会社 (予定)、データ分析企業	<p>◆ 提案要旨</p> <p>老朽化により道路の保守・点検の工数が増えている一方で、道路維持管理に充てられる人的コスト等には限りがあるため、効率的な道路維持管理が課題である。そこでドラレコ等のデータを用いることで人的コストを抑えつつ更にAIによる分析を実施することで、適切な道路維持管理の課題解決に向けて、データが活用できるか検証を実施する。</p> <p>◆ 実証事業での具体的な実施事項</p> <ul style="list-style-type: none">• 道路路面性状データ カメラを利用し、道路路面状況を取得、診断を行う• 道路付属物データ診断 ドラレコ等のデータを活用し、AI診断にて設備の有無や劣化を把握• 管理用GIS 地図レイヤーに様々な情報のレイヤーを重ね、一目で情報を把握 <p>◆ 今後の展望</p> <p>市民の安心安全に暮らせるまちづくりに向けて劣化度合の判定や熊本県データ連携基盤を活用したダッシュボードによる見える化を実施し、更に他の行政（熊本県警等）や民間企業の活用も視野にいれたスマートシティの実現をめざす。</p>

今後のスケジュールについて

事業提案公募スケジュール

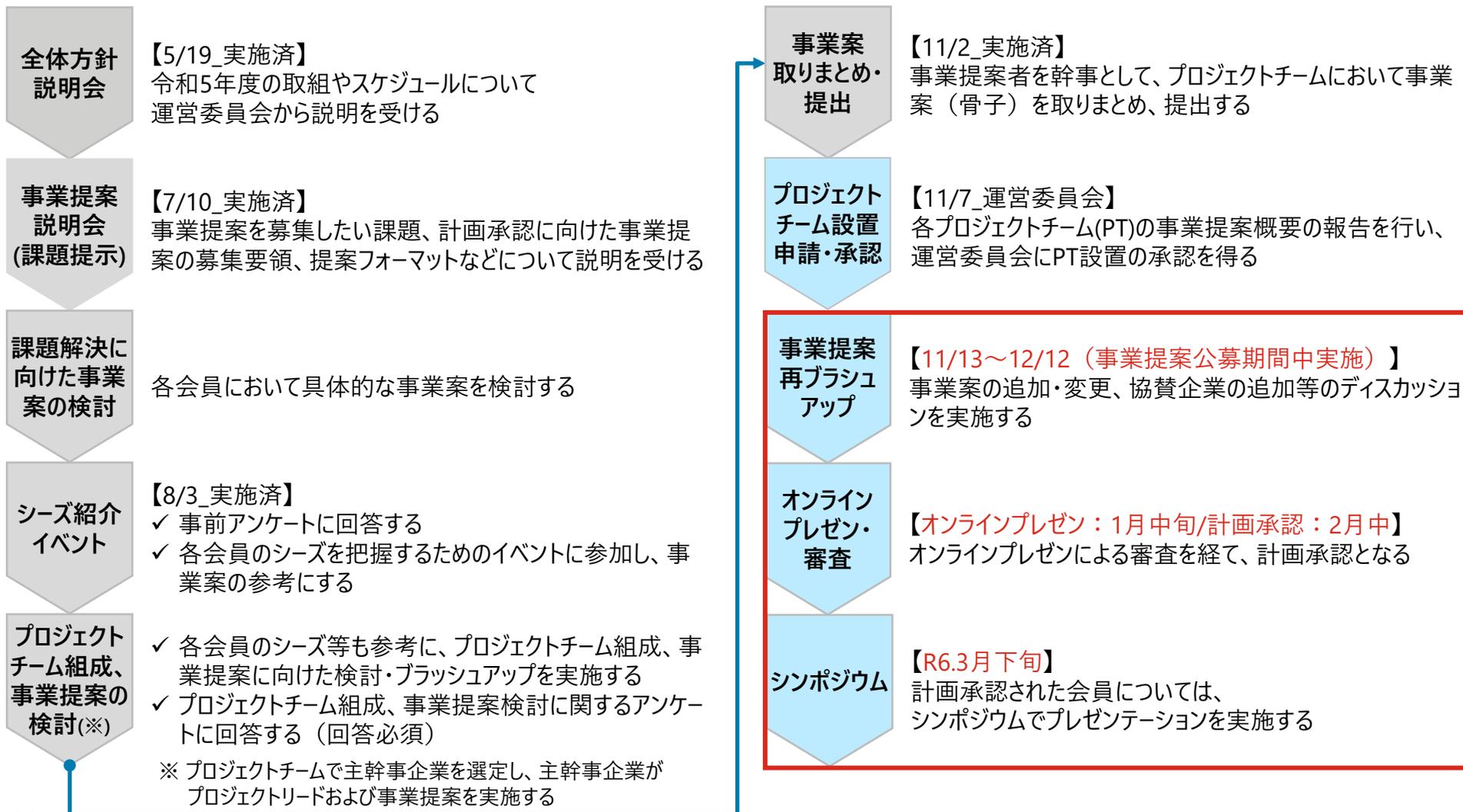
事業提案公募期間：11月13日（月）～12月12日（火）

本日承認された各プロジェクトチームは、11/2に提出いただいた事業提案（骨子）をベースに上記期間内で、プロジェクトチーム間の統合（協業）検討、事業提案ブラッシュアップにご協力ください。

11月中旬から1か月間の事業提案公募期間を設け、1月中旬にオンラインプレゼン・審査を実施し、2月中に計画承認を行います。承認されたプロジェクトは3月のシンポジウムで報告いただきます

プロジェクトの計画承認までの流れ（今後）〔会員のタスク〕

【凡例】  : 実施済  : 今後実施予定



閉会のご挨拶